

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			法定基準より2倍のスペースであるが、広さが刺激になっている面もある。 スペースを有効に使い、パーソナルスペースを確保したい。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			法定基準を大きく上回り配置しているが、利用者の特性上、可能であればさらに職員配置できると良い。 (利用者10名にスタッフ平均5〜7名)
	3	子どもの失踪や部外者の勝手な侵入が生じないような対策をとっているか	○			訪問者はモニターで確認、出入り口は暗証番号式3重ロックで施錠している。
	4	子どもにとって危険が生じないように、設備や備品等に破損や故障がないか	○			トイレ内を広くし、スヌーズレン横の遊具を撤去し、安全性を高めた。玩具類は日々の消毒の際にチェックしている。
適切な支援の提供	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、改善につなげているか	○			保護者等向け評価表でも地域交流や地域参加について、「どちらでもない」の回答が得られた。次年度は福祉まつりの参加などを再開する予定にしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		第3者評価を昨年受審したが、その結果を十分に運営に生かしきれていない(人材面)がある。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			資格取得研修、放課後連や市が開催する研修などに積極的に参加した。オンライン研修により受講機会が増加した。
	9	日々のアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	○			日々の記録や個別ミーティングを活用し、個別支援計画に生かしている。モニタリングも丁寧に行っているが、日々の記録が十分でない日もあった。今年度は複数の職員でオンライン共有化を進めることができた。
	10	保護者と半年に1回以上は面談し、個別支援計画を半年に1回は見直し・作成しているか	○			今年は基本を来所面談としたが、コロナ事情を考慮し、保護者意向の面談方法で実施したが、ほとんどが来所面談であったので、丁寧にお話をきくことができた。
	11	基礎となる活動プログラムの立案(行事や月間予定など)をチームで行っているか	○			月に2回開催の事業所会議等で定期的に行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			同じ公園遊びでも利用者に合わせた公園選定に配慮している。室内活動はプログラム内容に弱さを感じるので、室内プログラムの充実をはかりたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、活動内容を工夫して提供しているか	○			感染状況に合わせた活動時間と活動内容で提供している。1日活動だからこそ行える活動など、精選して行っている。

関係機関や保護者との連携や説明等	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ活動を提供しているか	○			利用者によっては個別活動に偏る面があった。コロナ禍でもあり個別活動に力を入れていた。徐々に基の活動内容に戻していきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			非常勤職員への打ち合わせは、もう少し時間をかけて丁寧に行えるとよい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			毎日の振り返りを全体、個別と丁寧に行い、次の支援に生かすようにしているが、日々変化のある伝達事項の共有を確実に行いたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			日々の記録を支援やモニタリング、面談、個別支援計画への反映に役立てているが、利用者によって記録量に差が生じている。業務改善としても記録のIT化を進めたい。
	18	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			コロナ感染症対策や事業所のカラーでもあり、偏りが生じているのは仕方ない面がある。今年度は海洋体験を実施するなど、活動を広げることができた。
	19	必要時、障害児相談支援事業所の担当者で連携(担当者会議や相談等)しているか	○			機会は少ないが、必要時は適宜連携している。
	20	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			学校によりトラサポネットを利用、または保護者を介して情報を得ている。学校と直接行えるといいが、システム上難しい。
	21	学校行事の見学等、学校での子どもの様子を把握するよう努めているか	○	○		コロナ感染症対策として学校公開の機会が全くないが、機会があればぜひ参加したい。
	22	学校入学前や卒業後の諸機関と、必要に応じて連絡をとりあっているか	○			入学者、卒業者がいなかったため実施していない。次年度は卒業生がいるため、丁寧な引継ぎを行いたい。
	23	障害のある子どもの放課後活動に関する連絡会への参加や地域の事業所との会議に出席して、情報共有に努めているか	○			地域の作業所連絡会、児童部会、東京都や国の放課後連に加入し、定例会や研修などに積極的に参加している。
	24	地域の方との交流や外出活動などを通して、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			コロナ感染症対策のため、地域交流の機会は減少しているが、季節行事や公園遊びなどで交流している。
	25	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			送迎時、面談時、連絡帳などで連携あっているが、複数事業所を利用している方もいるので、保護者に負担にならない範囲で行っている。
	26	入会時や変更時、運営規程、活動の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			変更が生じた時には随時、メールや文書で周知している。
	27	保護者からの相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			定期面談以外でも機会をもつようになっている。また保護者会の場合を活用し、OB保護者からも助言いただく機会をもった。
	28	地域行事への参加を通じ、また保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			コロナ前は地域のおまつりに出店する際に保護者交流の機会があったが、コロナ禍で現在も開催できず交流機会は減っている。一方、保護者会は対面とオンラインのハイブリット方式で行うなどで参加しやすい方法で行い、先輩保護者の話を聞く機会も設定した。
	29	苦情があった場合に、懇切に迅速かつ丁寧に対応し、改善策を速やかに伝えているか	○			苦情の申し出はなかった。

	30	定期的に会報の発行やホームページにて、活動の様子や情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			通信は定期的な発行を行い、地域にも発信する機会としている。ブログでは顔なしで掲載しているため。表情が伝わりにくい点がある。次年度は掲載について、改めて確認したうえで、ブログ掲載時の個人情報の取り扱いを再検討する。
	31	個人情報に十分注意しているか		○		書類や連絡帳の入れ間違いや利用者の送迎車内の忘れ物が複数回あったので、留意したい。
	32	地域行事への参加や事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			コロナ感染症により参加機会は減少しているが、にこにこ通信などで地域に活動の情報発信を行ったり、季節行事での交流を続けている。今後は交流機会を増やしたい。
非常時等の対応	33	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			すべてのマニュアルを策定しているが、定期的な見直しは引き続き実施する。次年度BCPを策定する際にも、効果的な周知方法について検討する。
	34	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			おおそ毎月避難訓練(地震編・火災編) 週間を計画し、実施している。引き取り訓練も保護者様協力のもとで実施することができた。
	35	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			虐待防止および身体拘束防止委員会を実施。他事業所との合同研修と法人内研修を行っている。事例検討や各種チェックシート(職員セルフチェックリスト含む)を用いて実施している。
	36	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			食物アレルギーについては一覧にして掲示。またエピペンが必要な利用者について外出時の持ち出しなどを支援前に確認している。
	37	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			終業時のミーティングや事業所会議などで定期的に共有化を行っている。月次まとめをおこない、よくあるヒヤリハットなどを集計することで、傾向などを共有理解することができた。今後は事例の記録方法を検討する。

●今後に向けた主な改善目標の総括

- ①昨年度から実施している業務改善提案書を活用し、複数の業務改善を行うことができた。特に環境整備についてはスペースの有効活用やパーソナルスペースの確保、衛生的かつ機能的な環境作りを進めている。経年劣化等や衛生面を考慮した環境整備を引き続き行う。
- ②個別活動を重視していたが、コロナ禍も落ち着きつつあるので、状況に合わせて、縮小していた集団活動や外出活動範囲を徐々に広げていきたい。
- ③日々の記録をモニタリングやアセスメント、個別支援計画に的確に反映するためにも、ICT活用をさらにすすめる。
- ④今年度は初めて海洋体験を実施し、保護者参加の場面をもつことで連携の場をもつことができた。今後も行事等を通して、保護者参加の機会をもつことで、相談や発信の場面をもてるようにする。
- ⑤さまざまな行事等を通して、地域参加の機会を増やし、地域交流を深めていきたい。